

平成 22 年 5 月 7 日現在

研究種目：学術創成研究費
 研究期間：2007 年度～2011 年度
 課題番号：19GS0102
 研究課題名（和文）目録学の構築と古典学の再生
 ー天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明ー
 研究課題名（英文）Establishing Library Catalogue Studies and Reviving Japanese Classical Studies—Restoration of the Royal and Noble Library Holdings and Investigation of Traditional Intellectual Systems
 研究代表者 田島 公
 (Tajima Isao)
 研究者番号：80292796

研究代表者の専門分野：日本古代史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本目録学・日本古典学・禁裏文庫・公家文庫・伝統的知識体系

1. 研究計画の概要

本研究課題は、日本古典学を再生するための新学問領域としての日本独自の目録学を構築し、古典学の研究基盤を整え、天皇家ゆかりの文庫や主要公家文庫収蔵史料を蔵書群ごとデジタル化して集積し、蔵書目録等を利用して、文庫の旧蔵形態を共時的に復原すると共に、蔵書群の変遷や古代・中世以来の公家社会が伝え育んできた伝統的な知識体系の構造・具体相を通時的に解明することを目的とする。具体的には以下の内容を行う。

- (1) 天皇家ゆかりの東山御文庫・伏見宮家及び九条家・柳原家・壬生家本等主要公家文庫収蔵史料や正倉院所蔵東南院文書のデジタル画像を作成し、東京大学史料編纂所の大型画像サーバに約 100 万件を集積する。
- (2) 東山御文庫本と伏見宮家本約 35 万件の各デジタル画像の内容目録を作成する。上記(1)と(2)とにより、デジタル画像目録システムを構築し、古典学の研究基盤を整える。
- (3) 「木簡人名データベース」の構築を始めとする『日本古代人名辞典』1～7(吉川弘文館)の増補改訂等、日本古典研究進展の為の研究補助ツールを充実させる研究を行う。
- (4) 禁裏・公家文庫の蔵書目録、文庫史、文庫収蔵典籍・文書の個別研究を進展させると共に、研究成果を研究者に還元する為の研究報告書を刊行し古典学の魅力を一般市民に伝え広める為の市民向け学術講演会を行う。

2. 研究の進捗状況

- (1) 東山御文庫本・伏見宮家本の 1 画像毎のデジタル画像内容目録約 15 万件を作成した。
- (2) 宮内庁所蔵九条家本等、陽明文庫所蔵近衛家本・西尾市岩瀬文庫所蔵柳原家本等のデ

ジタル画像約 70 万件を作成し、史料編纂所に導入した大型画像サーバに格納した。

(3) 正倉院所蔵東南院文書全 7 櫃中、第 1 櫃～第 6 櫃までの表(おもて)部分を中心に 1500 件の高精細デジタル画像を作成した。

(4) デジタル画像の内容目録作成支援及び研究閲覧用のため、「古典籍デジタル画像閲覧ソフト」(TKM ビューア)を開発した。

(5) 京都大学文学部所蔵「大日本史編纂記録」全 249 冊の基礎研究を行い、デジタル画像内容データベース約 1 万 5 千件を作成した。

(6) 『日本古代人名辞典』1～7 の増補・改訂に向け、同辞典を入力し、Excel データを作成すると共に、奈良文化財研究所の「木簡データベース」から「木簡人名データベース」を作成する為の基本ソフトを開発し、古代人名記載の木簡の年代を特定する基本資料を整備し、約 5 千件のデータを作成した。

⑦ 東京国立博物館所蔵の菊亭家旧蔵古典籍の書誌的データ目録を作成し、更に同館所蔵国宝九条家本「延喜式」の基礎研究を進めた。

⑧ 陽明文庫所蔵一般文書目録約 9 万 6 千件のデータを作成し、同文庫所蔵典籍目録の入力と「十五函文書」のデジタル撮影に着手した。

⑩ 古代の古典籍や古文書を題材にした市民向け学術講演会・連続講座を、西尾市岩瀬文庫・社団法人金鷲会等の協力を得て開催した。

⑪ 上記研究成果を含んだ研究書『禁裏・公家文庫研究』3(思文閣出版)と中間報告書『目録学の構築と古典学の再生』[東京大学史料編纂所研究成果報告 2008-1]を刊行した。

3. 現在までの達成度

【区分】 ②おおむね順調に進展している

【理由】 「1. 研究計画の概要」で示した

4 点の当初研究目的の到達度は以下の通り。
(1) 禁裏・公家文庫収蔵本のデジタル画像に関しては、3 年間で集積した約 70 万件の画像を史料編纂所の大型画像サーバ上に格納し、残り 2 年間で当初目標 100 万件に到達可能となった。正倉院所蔵東南院文書のデジタル画像を約 1500 カット撮影出来たので、研究期間内に残り約 1 千カットの撮影が可能となった。更に当初予定していなかった陽明文庫所蔵「十五函文書」のデジタル化にも着手出来き、平成 22 年度に収集出来る見通しがついた。当初目的を超える研究成果が見込まれる。

(2) 蒐集予定分も含めた東山御文庫本・伏見宮家本のデジタル画像約 35 万件に対する 1 画像毎のデジタル画像内容目録の入力数は約 15 万 6 千件(全体の約 45%)である。但しこれまでは比較的入力し易い史料を扱ったが、今後は未翻刻史料が多く、入力ペースが落ちると思われるので、研究計画の見直しが必要である。しかし(1)と(2)を併せたデジタル画像目録システムの構築に関しては、1 画像毎の内容目録が完成していなくとも、各史料の画像フォルダに対応する各家分けの蔵書目録(棒目録)が出来ているので、大型画像サーバに格納済みの天皇家・主要公家文庫の各蔵書群のデジタル画像を編纂所閲覧室で閲覧するシステムを構築する見通しが出来た。従ってほぼ当初目的通りの進展が見込まれる。

(3) 木簡人名データベースは奈良文化財研究所で平成 22 年度に完成予定であり、平成 22・23 年度に仁和年間迄の人名の増補データが完成予定であるので、研究期間内に同辞典の全面改訂の為の研究基盤は整う予定である。

(4) 蔵書目録・文庫史の研究、禁裏・公家文庫収蔵史料に関する個別研究の成果の研究者への還元に関しては、予定通り『禁裏・公家文庫研究』3 と中間報告書を刊行できた。また『京都御所東山御文庫所蔵地下文書』の刊行は当初研究目的を超える成果である。一方、古典学普及のための市民向け啓蒙活動として実施している市民向け学術講演会・講座は、主催・共催を含め 6 会場で 40 回実施し好評を博しており、予定通りの成果を収めた。

以上、(1)～(4)を総合すると、当初目的の達成に向け、ほぼ順調に進展している。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 宮内庁所蔵壬生家文書・白川家日記、陽明文庫所蔵「十五函文書」・正倉院所蔵東南院文書等のデジタル化を行い、当初目標である累計 100 万件のデジタル画像を東京大学史料編纂所の大型画像サーバに格納する。

(2) これまでに蒐集したデジタル画像データの内、所蔵機関の許可を得られたものは、東京大学史料編纂所に構築する「デジタル画像目録システム」により、編纂所閲覧室で平成 23 年度末までに公開出来るよう準備する。

(3) 5 年間で作成する東山御文庫本・伏見宮家本の 1 画像毎のデジタル画像内容目録の入力目標総件数である約 35 万件を約 25 万件に修正し、残り 2 年間で約 10 万件作成する。

(4) 平成 22 年度に「木簡人名データベース」を完成し、23 年度にデータベースを公開する。

(5) 九条家本延喜式の基礎研究を進め、平成 22・23 年度に影印本(東京国立博物館古典籍叢刊『延喜式』1～5、思文閣出版)の解説で発表し、紙背文書の全釈文を公開する。前田育徳会尊経閣所蔵の平安・鎌倉期の儀式書の基礎研究を行い、平成 22・23 年度に『尊経閣文庫善本影印集成』第 7 平安・鎌倉期儀式書(八木書店)の解題として公表する。

(6) 陽明文庫所蔵「典籍目録」甲・乙他をデータベース化し、既入力「一般文書目録カード」のデータと併せて、平成 23 年度までに陽明文庫所蔵資料の全容解明に務める。陽明文庫所蔵「勘例」等の調査研究を行う。

(7) 「大日本史編纂記録」に関する基礎的研究、データ内容を平成 22 年度に公開する。東山御文庫所蔵『延暦寺文書』を史料纂集古文書編として平成 23 年度までに刊行する。

(8) 『禁裏・公家文庫研究』4 と中間報告書 2 を研究期間内に刊行し、研究成果を公開する。

(9) 西尾市岩瀬文庫・社団法人金鶏会等において、市民向けの古典学に関する特別連続講座・学術講演会を年間 15 回以上継続的に行い、岩瀬文庫で行う特別連続講座については、講座の内容を織り込んだ本を岩瀬文庫と共編で出版する。また、新たに「陽明文庫講座」(仮称・会場は立命館大学を予定)を開催する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(1) [雑誌論文] (計 37 件)

① 志村佳名子、「平安時代日給制度の基礎的考察」、『日本歴史』、査読有、739 号、1-18 頁、2009 年

② 田島公、「公卿学系譜」の研究」、『禁裏・公家文庫研究』、査読無、3 輯、227-318 頁、2009 年。

(2) [学会発表] (計 4 件)

① 遠藤基郎「史料群としての東大寺文書、その成り立ち」、国史談話会 2009 年度大会、2009 年 6 月 13 日、東北大学文学部(仙台市)

(3) [図書] (計 6 件)

① 末柄豊解題・校訂『京都御所東山御文庫所蔵地下文書』(八木書店)、全 273 頁、2009 年

② 遠藤基郎『中世王権と王朝儀礼』(東京大学出版会)、1-448 頁、2008 年。

(4) [産業財産権]

○出願状況 (計 0 件) ○取得状況 (計 0 件)

(5) [その他] ホームページ

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/kodai/kinri-kuge-index.html>